HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『五国対照兵語字書』の研究［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	胡, 琪
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第11592号
Issue Date	2014-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57730
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Qi_Hu_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称　博士（文学）　氏名　胡　琪

学位論文題名

『五国対照兵語字書』の研究

本論文は、1881 年（明治 14 年)、参謀本部によって刊行された『五国対照兵語字書』（以下『五国』）を対象として、その編纂成立について書誌学的・文献学的研究を行い、さらに掲載された訳語について特に語彙論の観点から分析と考察を行ったものである。

『五国』は、明治の啓蒙家西周をはじめとする翻訳チームによって編纂された、日本最初の軍事用語対訳辞書である。従来の研究において、『五国』は、「明治時代の最大規模の辞典」 、「日本の軍隊用語の決定にあずかって力があったもの」 、「日本の兵語の統一事業の責任を担っている」 などと高く評価されている。しかし、これらの研究はほとんど『五国』を解題する段階に止まっており、辞書の構成、編纂事情及び収録項目についての詳しい研究は存しない。本論文では、まず、『五国』と依拠文献の書誌学的調査、編纂成立に関する文献学的研究を行い、次に、これを基礎として、特に語彙論の観点から『五国』の収録項目について基礎的な研究を試みた。

本論文は「はじめに」と「おわりに」を入れて、11 の部分から構成される。第 1 章から第 5 章までの 5 章は、書誌学的・文献学的な面から『五国』を検討したものであり、『五国』の構成、編者、成立過程、翻訳底本と準備期の稿本の五つの問題について検討した。第 6 章から第 9 章までの 4 章は、語彙論の観点から『五国』を考察したものであり、『五国』の収録項目の概要、翻訳の特徴、2 字漢語を中心とした初出語彙の問題を検討した。

第 1 章は『五国』の構成について説明したものである。『五国』は扉・序文・凡例・中扉・略語表・本文・正誤・毛色解及毛色類別の八つの部分からなることをまとめた。

第 2 章では、前章で説明した序文や凡例の内容と、早川勇『日本の英語辞書と編纂者』(2003)の内容を踏まえながら、『五国』の編者西周・室岡峻徳・菊野七郎・若藤宗則・矢島玄四郎の五人の経歴をまとめた。

第 3 章では、防衛研究所史料研究センターにある「陸軍省大日記」の史料 3 点を使って、今まで解明されていなかった『五国』の成立過程を明らかにした。①「室岡峻徳・松岡邦道・柳田赳・菊野七郎・若藤宗則・高橋琢也の 6 人が兵語辞書編輯掛兼務に任命された」という内容の史料、②「兵語辞書の編纂に、ドイツ語・フランス語・英語の翻訳できる者を新聞で募集する」という内容の史料、③「兵語辞書編集掛を 17 名採用した」という内容の史料、の 3 点を紹介して、『五国』の編纂事情をはじめて明らかにした。

第 4 章では、今まで謎であった『五国』の翻訳底本を解明したものである。『五国』序文に見えるオランダの陸軍大尉ランドルト（和蘭陸軍歩兵大尉蘭達拉多、H. M. F. Landolt、1828-1871）の『海陸軍術語薈譯辭書』を探索し、そのオランダ語編（1865 年)、ドイツ

語編（1866 年）、フランス語編（1867 年）、英語編（1868 年）、補遺（1871 年）と『五国』とを照合して、フランス語編（1867 年）と、補遺（1871 年）のフランス語部の二つの資料が『五国』の翻訳底本であることを明らかにした。

第 5 章では、『五国』の準備期の稿本についての問題を検討した。藤田東一郎や信岡資生の研究には、この問題に触れた部分があるが、詳しい分析はまだ行われていない。この研究では、これらの先行研究の内容を踏まえて、『池田良輔先生小伝』と陸軍省の史料 1 点の内容を参考しながら、和歌山の洋学者池田良輔の経歴をまとめた。そして、池田の手稿「兵学辞書 A ノ部：仏独英蘭日五ヶ国対訳」を『五国』の A 部と対照し、この手稿は『五国』の準備期の稿本であることを立証した。

第 6 章以下は、語彙論の観点からの分析である。

第 6 章では、『五国』の収録項目及び日本語訳に注目して、そのデータベース構築を行い、その結果を報告した。『五国』データベースは、現段階で完成したのはフランス語と日本語の部分であるが、この章では、このデータベースを使って、今まで明らかにされていなかった『五国』の収録項目数は 13,304 件であることを明らかにした。さらに『五国』本文に施された各種の術語注記によって収録項目を分類し、その内容について考察した。

第 7 章では、見出しのフランス語と日本語訳の対応関係、日本語訳の表記と、見出しのドイツ語・英語・オランダ語と日本語訳の関係の三つの面から、『五国』の翻訳特徴を考察した。この考察によって明らかになった『五国』の翻訳特徴は、①一つの見出し項目に一つの訳語で翻訳すること、②漢字表記語で翻訳すること、③フランス語だけではなく、対訳のドイツ語・英語・オランダ語も総合的に参考にして翻訳すること、の 3 点に集約されることを述べた。

第 8 章では、『五国』の日本語訳から「服務」という言葉を取り上げ、翻訳時における造語の可能性の指摘し、さらにその後の日中両言語に与えた影響について日中語彙交流史研究の視点から考察した。

最後の第 9 章では、『日本国語大辞典』(第二版)を使って、『五国』に由来する可能性の高い 2 字漢語を整理・分析した。『五国』が初出例として『日本国語大辞典』(第二版)に用いられたものが 253 語あり、『日本国語大辞典』(第二版)に挙げた初出例より、『五国』での記述のほうがより早いものが 23 語あり、『日本国語大辞典』(第二版)に初出例が記されておらず、『五国』における記述を候補として挙げることのできるものが 11 語ある。これだけの 2 字漢語が『五国』に由来する可能性があることから、『五国』が日本語にもたらした影響が大きかったこと窺えるとした。この考察によって得られた知見は、『日本国語大辞典』(第二版)における用例の追加・修正に役に立つことが期待されるとした。

本論文は、編纂過程や翻訳底本など、これまで謎であった問題を解明し、『五国』本文のフランス語と日本語訳語のデータ化を完成して、今後の研究のための基礎を築いたものである。